

一般社団法人 東の食の会 2015 年度活動報告書

2016 年 6 月

一般社団法人 東の食の会

一般社団法人 東の食の会
2015 年度活動報告書

目次

【1】	概要	2
【2】	主な実績	2
【3】	活動ご報告	3
【4】	会員企業に関する状況	12
【5】	一般社団法人東の食の会 運営体制	13

一般社団法人 東の食の会
2015年度活動報告書
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

【1】概要

東日本大震災発生後の2011年6月10日に発足いたしました一般社団法人東の食の会は、会員企業様、生産者様をはじめとする皆様のお力添えをもちまして、五期目の決算を迎える運びとなりました。

本年度は震災五年目を迎え、これまでの復興の形から新しい復興の形へシフトしていく年となりました。産業復興に向けた事業の強化、主体的な発信力の強化を進めながら、特に食産業復興に関わる企業・団体の大同団結のプラットフォーム作りに注力し、活動を進めてまいりました。

事業の強化においては、ヒット商品「サヴァ缶」の第二弾となる「サヴァ缶レモンバジル味」をリリースし、日本全国で販売されるようになり、売上を大きく伸ばしました。

また「三陸フィッシャーマンプロジェクト」から新たに、岩手県・宮城県・福島県の三県の水産業のリーダーが集まり、事業連携体制及び行政や漁業との連携を通じて、世界に通用するブランドを生み出し、地域全体、水産業全体の利益に貢献することを目的とする「フィッシャーマンズ・リーグ」を立ち上げました。

発信力の強化においては、11月に3回目となるTOKYO HARVESTを開催するとともに、テレビ番組での特集をはじめ、メディア・消費者への発信活動も増加させることができました。

食産業復興に関わる企業・団体のプラットフォーム作りにおいては、2015年7月に岩手で、2016年3月に福島であらゆる業界から食産業復興のキーパーソンが一堂に会して「東の食の実行会議」を実施し、具体的なアクションを生み出しました。最終回の3月の実行会議では、今後の東北の復興の道標となる「東の食の道」を作成するとともに、東北の生産者の方々の想いを踏まえて、「東北から食のブランドをどんどん生み出し、2020年末までに新しいブランドを最も多く生み出す地域となる」という、今後の指針となる新たなビジョンを作り上げることができました。

【2】主な実績

- ・ 2015年度の活動を通じて直接・間接に生み出した流通総額の概算は約100億円（累計約150億円）。
- ・ 2015年7月、復興庁「新しい東北」先導モデル事業として、岩手県遠野市において、「東の食の実行会議2015」を開催。東北の食の産業復興に向け、プラットフォームとしての機能を拡大すべく、リソースを集約。より多くの企業やステークホルダーの取り込み・官民連携を行い、インパクトを増幅するための具体的なアクションを生み出した。
- ・ 2016年3月、「東の食の実行会議2016」を福島で開催し、これからの東北の復興の道標となる「東の食の道」を策定したほか、様々な具体的なアクションを生み出した。
- ・ 2015年11月、オイシックス株式会社、カフェカンパニー株式会社との共催で、六本木ヒルズアリーナにおいて、「TOKYO HARVEST」を開催。2日間で昨年以上の35,000人を動員した。

- ・ 「Food Action Nippon Award（「食文化・普及啓発部門」）」を三陸フィッシャーメンズ・プロジェクトが受賞。
- ・ 「ふるさと名物 Wonder500」に東の食の会がプロデュースした「アカモク」と「サヴァ缶」がノミネート。
- ・ 「おもてなしセレクション」でサヴァ缶が金賞受賞。
- ・ 岩手県産株式会社と共同開発し、2013年に販売を開始した国産サバのオリーブオイル漬け缶詰「Ça va? サヴァ缶」が、2年6カ月で販売数累計100万個を突破した。2016年3月には第二弾となるレモンバジル味を発売し、5月末時点で販売数20万個を突破し一大ヒット商品となっている
- ・ 岩手・宮城・福島の水産業のリーダーたちが連携し新たな価値を生み出していく「フィッシャーメンズ・リーグ」を立ち上げた。「三陸/SANRIKU」ブランドの確立を目指し、香港でテストマーケティングを行ったほか、世界最大級の食品展示商談会のFOODEX JAPANに参加した。

【3】活動ご報告

1. プラットフォーム整備
2. マッチング
3. プロデュース
4. 人材育成
5. プロモーション

1. プラットフォーム作り

昨年度に引き続き、復興庁「新しい東北」先導モデル事業として、「東の食の実行会議 2015」を岩手県で、「東の食の実行会議 2016（最終回）」を福島県でそれぞれ開催した。東北の食の産業復興に向け、生まれ始めた成功事例を共有し、企業のリソースを集約して、大きな経済インパクトを持続可能な形で生み出すことを目的としている。2回の会議を通じて、具体的なアクションが生み出され、実際に実行に移されている。また2016年度は、震災から5年目以降、東北地域の食産業が継続的な発展を続けていくために、ステークホルダーが共通してもつビジョンを取りまとめ、発表した。

■東の食の実行会議 2015

2015年7月10日、11日に岩手県遠野市の遠野みらい創りカレッジにおいて、「東の食の実行会議 2015」を開催した。復興キーパーソン130名が参加し、「アクション&ビジョン」のテーマの下で、「2020年までの東北の食産業のビジョン」策定に向けた議論や、第1回の実行会議で生まれたムーブメントを拡大するためのアクションプラン策定が行われた。

本会議では、地方創生のモデルケースとして、国内外の先導的な事例について学ぶセッションを複数設け、ビジョン策定の参考とした。また、現地の事例視察では、大船渡市で三陸の高品質

な素材の鮮度を保つ CAS 冷凍技術を導入し、食材だけでなく、郷土の文化を含んだ調理品の販売を行っている「三陸とれたて市場」、大船渡市吉浜の若手漁師団体「吉浜元気組」、陸前高田市でブランド牡蠣の養殖を行う佐々木商店を視察した。

■東の食の実行会議 2016

2016年3月4日、5日に福島県いわき市のいわき海浜自然の家と福島市のチャンネルスクエアにおいて「東の食の実行会議 2016 (最終回)」を開催した。復興キーパーソン 175名が参加し、「ブランド」を軸とした「2020年までの東北の食のビジョン」の採択、東北の食のブランドのあり方を謳った「東の食の道」の作成、ビジョン達成に向けたアクションプランの策定を行い、2日目の最終プログラムで会議成果の記者発表を行った。

現地の先進事例視察では、1) 三菱商事復興支援財団が地域の果樹農家と連携して果実酒の生産に取り組む「ふくしま逢瀬ワイナリー」、2) 地域の農家が連携し、おいしさの数値化やブランドづくりを行っている「郡山ブランド野菜協議会」、3) 福島の子どもたち、そして未来の農業経営人材の育成を目的として取り組む太陽光発電と植物工場を組み合わせ、「南相馬ソーラー・アグリパーク」「南相馬トマト菜園」、を3班に分かれて視察した。

(プログラム詳細については次項に掲載の通り。)

＜東の食の実行会議 2015 プログラム＞

－7月10日－	－7月11日－
<p>11:45～12:45 ウェルカムランチ 山田邦雄様 ロート製薬㈱代表取締役会長兼 CEO 本田敏秋様 遠野市長 千葉茂樹様 岩手県副知事 畠利行様 福島県副知事</p> <p>13:30～13:50 オープニング 高島宏平 実行委員長</p> <p>13:50～14:05 モデルケース① 「ニューオリンズ」 山内幸治様 ETIC. 事業統括ディレクター 小松洋介様 アスヘノキボウ代表理事</p> <p>14:05～14:55 「東の食のピッチ」 林篤志様 合同会社Paramita 代表 立花貴様 公益社団法人 SweetTreat311 代表理事 石渡晃一様 カフェ・カンパニー株式会社 常務取締役 赤間俊介様 株式会社シーフーズあかま 営業部長 (当時) 藤沢烈様 一般社団法人 RCF 代表理事 笹野健様 石巻市副市長 田中透様 釜石市副市長 江良慶介様 一般社団法人 AP バンク 島田昌幸様 株式会社ファミリア 代表取締役 開沼博様 福島大学 特任研究員 (モデレーター:川邊健太郎様 ヤフー㈱取締役副社長 COO)</p> <p>15:15～16:00 モデルケース②、③ 「徳島県上勝町、くまモン」 水野学様 good design company 代表 横石知二様 株式会社いりどり 代表取締役 (モデレーター:加治慶光様 アクセンチュア㈱ チーフ・マーケティング・イノベーター)</p> <p>16:05～16:25 基調報告 「東の食産業復興の現状」 小泉進次郎様 復興大臣政務官 (当時)</p> <p>16:25～17:10 全体パネル・ディスカッション 「東の食の復興戦略:アクション&ビジョン」 磯崎功典様 キリン株式会社代表取締役社長 小泉進次郎様 復興大臣政務官(当時) (モデレーター:高島宏平 東の食の会代表理事)</p> <p>17:10～18:40 課題別グループ・ディスカッション</p> <p>19:30～21:30 東の食のディナー 楠本修二郎 東の食の会代表理事 菊地ナヨ様 あやおり夢を咲かせる女性の会会長 磯崎功典様 キリンホールディングス株式会社/ キリン株式会社 代表取締役社長 キャンドル・ジュン様 一般社団法人 LOVE FOR NIPPON 代表</p>	<p>8:00～12:20 先導モデル視察 佐々木商店 (岩手県陸前高田市) 有限会社三陸とれたて市場 (岩手県大船渡市) 吉浜元気組 (岩手県大船渡市)</p> <p>12:30～13:00 「東の食のピッチ」 阿部勝太様 漁業生産法人浜人 代表 岩佐大輝様 農業生産法人株式会社 GRA 代表取締役 CEO 下苧坪之典様 株式会社ひろの屋 代表取締役 針生信夫様 株式会社舞台ファーム 代表取締役 (モデレーター:佐藤大吾様 ジャパングビング 代表理事)</p> <p>13:00～13:20 モデルケース④ 「メキシコ湾」 高橋大就 東の食の会 事務局代表 Buddy Guindon 様 漁師(テキサス州) (ビデオメッセージ)</p> <p>13:20～13:45 モデルケース⑤ 「越後妻有」 北川フラム様 越後妻有大地の芸術祭 アートディレクター</p> <p>14:00～14:45 全体パネル・ディスカッション 「東の食の発信」 佐々木紀彦様 ニュースピックス編集長 ジョン・キム様 作家 次原悦子様 株式会社サニーサイドアップ 代表取締役社長 (モデレーター:津田大介様 メディア・アクティビスト)</p> <p>14:45～15:00 スピーチセッション 「福島の食産業復興」 半谷栄寿様 一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流 の会 代表理事 (ビデオ・メッセージ) 松本文様 株式会社夜明け市場 取締役 箭内道彦様 クリエイティブ・ディレクター</p> <p>15:00～16:30 課題別グループ・ディスカッション 「東の食の実行プラン:アクション&ビジョン」</p> <p>16:35～17:15 実行プラン発表</p> <p>17:15～17:30 クロージング・セッション</p>

<東の食の実行会議 2016 プログラム>

-3月4日-	-3月5日-
<p>11:00~13:00 ウェルカムランチ 元木寛 様 株式会社ワンダーファーム 代表取締役 高木宏寿様 復興大臣政務官 山田邦雄様 ロート製薬(株)代表取締役会長兼 CEO</p> <p>13:30~13:40 委員長挨拶 高島宏平 実行委員長</p> <p>13:40~14:00 基調報告 高木宏寿様 復興大臣政務官</p> <p>14:00 ~14:35 「東の食のアクション報告」 千葉雅俊様 石巻うまいもの発信協議会 会長 吉川稔様 カフェ・カンパニー株式会社取締役副社長(当時) 藤沢烈様 一般社団法人 RCF 代表理事 石渡晃一様 カフェ・カンパニー株式会社 常務取締役 永順太郎様 ヤフー株式会社 社会貢献室 佐藤千晶様 フリーアナウンサー 山内幸治様 NPO 法人 ETIC 理事/事業統括ディレクター (モデレーター:佐藤大吾様 (財)ジャパングビング代表理事)</p> <p>14:35~15:20 「東の食のピッチ」 白石長利様 ファーム白石代表 佐藤博文様 農業生産法人(株)きのこの SATO 代表取締役 千葉豪様 吉浜元気組 会長 木村長努様 株式会社木の屋石巻水産 代表取締役社長 開沼博様 福島大学うつくしま福島未来支援センター 特任研究員 針生信夫様 株式会社舞台ファーム 代表取締役 (モデレーター: 本田勝之助様 本田屋本店(有)代表取締役)</p> <p>16:05~16:25 「東の食の全体ビジョン」 岩佐大輝様 農業生産法人(株)GRA 代表取締役 CEO 下苧坪之典様 株式会社ひろの屋 代表取締役 半谷栄寿様 南相馬復興アグリ株式会社 代表取締役 程近智様 アクセンチュア株式会社 取締役会長 (進行: 高橋大就 一般社団法人東の食の会 事務局代表)</p> <p>16:20~17:00 全体パネル・ディスカッション 「東の食のブランドづくり」 次原悦子様 株式会社サニーサイドアップ 代表取締役社長 林田昌也様 キリン株式会社 CSV 本部 執行役員 CSV 推進部長 水野学 様 good design company 代表取締役 (モデレーター: 津田大介様 メディア・アクティビスト)</p> <p>17:00~18:30 課題別グループ・ディスカッション</p> <p>19:00~21:00 東の食のディナー 楠本修二郎 東の食の会代表理事 清水敏男様 いわき市長 内堀雅雄様 福島県知事 広野昇龍太鼓の皆さま ハーラウ ラウラーナニの皆さま</p>	<p>8:30~12:00 先導モデル視察 ふくしま逢瀬ワイナリー (福島県郡山市) 郡山ブランド野菜協議会 (福島県郡山市) 南相馬ソーラー・アグリパーク/南相馬トマト菜園(南相馬市)</p> <p>13:00~13:30 「福島の魅力 -次世代の視点-」 平学様 一般社団法人 F-WORLD 代表理事 佐原真紀様 NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト 三浦浩喜様 福島大学 副学長 福島市立岳陽中学校の皆さま 福島市立第二中学校の皆さま (モデレーター: 川邊健太郎様 ヤフー(株)副社長執行役員 COO)</p> <p>13:30~14:10 全体パネル・ディスカッション 「東の食の成長戦略」 小泉進次郎様 衆議院議員 自民党農林部会長 増田寛也様 日本創成会議 座長 (モデレーター: 高島宏平 実行委員長)</p> <p>14:10~14:30 「Reborn-Art Festival」 小林武史様 一般社団法人 AP バンク 代表理事 藤沢久美様 シンクタンク・ソフィアバンク 代表</p> <p>14:40~16:30 課題別グループ・ディスカッション</p> <p>16:30~17:30 実行プラン発表</p> <p>18:00~19:00 記者会見・クロージング</p>

<会議成果>

- ・ **ビジョン**：「東北から食のブランドをどんどん生み出し、2020 年末までに新しいブランドを最も多く生み出す地域となる」というビジョンをとりまとめた。
- ・ **定量目標**：「2020 年末までに東北から新たなグローバルブランドを 1 個、ナショナルブランドを 3 個、ローカルブランドを 10 個生み出す」という目標を掲げた。
- ・ **ブランドのあり方**：東北の食のこれまでの強さと、これからの強さをまとめ、新しい東北の食のブランドのあり方を謳った「東の食の道」10 箇条を採択した。
- ・ **今後の運用**：東北の食のブランド力を測定し、ランキングを実施する。また年に一度、「ブランドアワード」を開催し、地域経済への貢献や、ブランド力の成長度などから特に優秀なものを表彰する。
- ・ **アクションプラン**：水産業、農業、販売、輸出、芸術、人材、資金、行政の 8 分野から、以下の 10 のアクションプランを策定した。

No.	分野	アクションプラン
1	水産業	東北の水産業を世界ブランドにする事業者のプラットフォーム「フィッシュャーマンズ・リーグ」の立ち上げ
2	農業	浜通り、中通り、会津を越えた、福島 of 農業者・プロデューサーが集い、経営スキルの醸成や後継者育成を行うプラットフォームの立ち上げ
3	販売	東北の食品を、流通、小売、外食の各社が、業界の垣根を超えて共通ブランドとして展開する「おっ母ちゃんの台所」ブランドの立ち上げ
4	輸出	三陸の牡蠣と東北の日本酒を、共通の地域ブランドの下でプロモーション実施、輸出
5	芸術	地域の未来を形づくるきっかけを作るべく、現地の地域の「生きる力」を芸術や食を通じて伝える「Reborn-Art Festival」の開催、2016 年夏の音楽イベントの開催
6	人材①	東北へのフィールドワークコミュニティ形成によって地方創生の担い手を生み出す「東北オープンアカデミー」の実施
7	人材②	地域リーダー達のスキル成長や、課題共有、企業経営者のメンターシップを受けるコミュニティの立ち上げ及び、年に一回の「突き抜ける！カンファレンス」の開催
8	資金	東の食の実行会議イニシアチブへの資金調達支援メカニズムを整備。第一弾として、資金とデザインを提供する「finan=sense」を利用して、福島農業プラットフォームでの農産加工品の開発支援

No.	分野	アクションプラン
9	行政①	石巻市、女川町、大船渡市、釜石市の被災4市町が連携して官民連携の窓口となる「東の窓の会」の結成、およびビジネスマッチングイベントの開催
10	行政②	「東の窓の会」の4市町が、ふるさと納税制度を活用し、「食」関連の取り組みに対して「顔」が見える支援の仕組みを作る

2. マッチング

東北の生産者の具体的な取引を増やして経済的インパクトを生み出すべく、個別のマッチングに取り組み、大規模な取引も実現した。

個別の営業支援に加えて、東北の生産者と都内の食関連企業バイヤーを一堂に集めて、自社製品を使ったランチを提供しつつ行う「東京ランチ商談会」を6回実施し、毎回、生産者、バイヤーとも、7～10社ほどが参加した。生産者の生の声で説明を聞きながら、実際に商品を食べながら行うこのランチ商談会は、成約に至る確率も高く、多くの導入事例を生み出した。

<主な導入事例>

- ① キリンシティがヤマサコウショウの煮ダコをグランドメニューに導入
- ② 早野商事が、久慈ファームの「佐助豚」を導入。
- ③ ヤマムロが、山根商店の「縄文漬け」を導入

3. プロデュース

■「Ça va (サヴァ) 缶」プロジェクト

三陸フィッシャーマンズ・プロジェクトの一環として、三陸から高付加価値商品の先行事例を作るべく、東の食の会プロデュース、「岩手缶詰株式会社」製造、「岩手県産株式会社」販売という形で作られたサバのオリーブオイル漬け缶詰「Ça va (サヴァ) 缶」は、2013年9月の販売開始から2年6ヶ月で販売数累計100万缶を突破した。

地方アンテナショップや物産展のみならず、駅ナカのショップや都内の高級パン屋、イトーヨーカドー全店、大手コンビニエンスストアなどでも販売中で、現在は月6万缶ペースで出荷されている。

また、今年の3月1日には第2弾となるレモンバジル味が発売開始となり、こちらも5月末時点で販売数20万缶を突破し、一大ヒット商品となっている。

■地域横断アカモクプロジェクト

2014年3月に立ち上げた、美容・健康に効果的な海藻「アカモク」を、地域を超えて共通のマーケティングを行うことで市場を拡大する「地域横断アカモクプロジェクト」は、2014年度、販路開拓やお客様試食会、ソーシャル上での拡散に取り組み、徐々に販売を拡大していったが、2015

年3月、テレビ番組「ガイアの夜明け」で特集されたことをきっかけに、大きな注目を集めることになった。生産者による震災前との売り上げ比較では、売上高が5倍以上に伸びており、製造キャパシティの拡充の必要性など課題点はあるものの、アカモクが販売商品の主事軸に切り替わったと実感いただいている。本年度も各種イベントや催事でPRの強化を進め、徐々に知名度も向上している。

■フィッシャーマンズ・リーグ

2015年8月より岩手県・宮城県・福島県の三県の水産業のリーダーが集まり、「復興応援 キリン絆プロジェクト」の助成の下、事業連携体制及び行政や漁業との連携を通じて世界に通用するブランドを生み出し、地域全体、水産業全体の利益に貢献することを目的として「フィッシャーマンズ・リーグ」会合を実施した。

<実施成果>

2016年5月現在、全6回の全体会合を終えて以下の方向性を打ち出した。

・ **SANRIKUブランドの確立**

地域を超えたブランドとして、まずは宮城県と岩手県の海域を対象とした、「三陸/SANRIKU」に照準を当て、「三陸/SANRIKU」ブランドのコンセプトの確立を目指す。「三陸/SANRIKU」が誇る製品のシンボルとして牡蠣とわかめに絞り込み、ブランディングを実施していく。国内での「三陸/SANRIKU」ブランドの展開は、海外からの逆輸入という形が有効だと考え、香港にてテストマーケティングを行うなど、アジア圏への輸出からブランド確立に向けて活動を進めている。

・ **輸出拡大**

牡蠣とわかめをメイン商材として、香港やタイを中心としたアジア圏への輸出の販路開拓を進めている。2016年3月、フィッシャーマンズ・リーグとして、東京で開催された世界最大級の食品展示商談会「FOODEX Japan2016」に参加した。SANRIKUブランドとして売りだした海産物は、国内外の飲食店や商社からの引き合いがあり、複数のバイヤーと商談を進めている。

・ **食育活動**

国内での魚食率の低下を踏まえ、需要創造のための啓蒙活動として食育のイベントや情報発信を行っていく。ウェブサイトでの情報発信のほか、首都圏でのイベント実施などで「三陸/SANRIKU」の豊富な食材への理解と興味を促していく。

・ **参加メンバーの研修活動**

参加メンバーのビジネススキルやリーダーシップ、また、水産業全般や地域再生に対する知見を向上させるため、外部からの講師を招いてワークショップを実施する。具体的には、マーケティングやブランディングのセミナー、水産資源管理のセミナー等を実施予定。

<フィッシャーマンズ・リーグの立ち上げ>

これらの活動を今後も継続していくため、3月、任意団体としてフィッシャーマンズ・リーグ (<http://fml.or.jp/>) を立ち上げた。

リーダーには、地域や業種を超えた以下の5名が選出された。

- ・清水敏也（宮城県気仙沼/株式会社八葉水産）
- ・下苧坪之典（岩手県九戸郡洋野町/株式会社ひろの屋）
- ・阿部勝太（宮城県石巻市/漁業生産組合 浜人）
- ・千葉豪（岩手県大船渡市/吉浜元気組）
- ・高橋大就（東京都品川区/一般社団法人東の食の会）

4. 人材育成

新しい水産業の担い手となるリーダー養成プログラム、「三陸フィッシャーメンズ・キャンプ」の5期目を「復興応援 キリン絆プロジェクト」の助成を受けて実施。東北の水産業に携わる人材に対し、事業計画の作成、水産業の課題と解決策の討議、商品の強みやターゲット顧客を考えるマーケティング戦略立案などの研修を行った。

これらを経て、如何に販売するかという戦略を立てる力を育成し、マーケットのニーズを踏まえた新しい水産業を創造することのできる若手人材の育成を目指した。

<合宿実施スケジュール>

～第5期（南三陸町）～

- | | | |
|-----|----------------|---------|
| 第1回 | 2015年1月7日～8日 | 延べ46名参加 |
| 第2回 | 2015年2月13日～14日 | 述べ16名参加 |
| 第3回 | 2015年5月8日～9日 | 述べ22名参加 |

<各回テーマ>

- 第1回：食と地域プロデュース～地域をおこすプロデュース力～
- 第2回：ブランドづくり～小さな会社を強くするブランドの立ち上げ～
- 第3回：営業スキルの向上～バイヤーを5分で落とす営業テクニックを磨く～

その他に、以下のプログラムも実施した。

- ・品質管理セミナー：2015年5月18日
岩手県大船渡市にて開催され、岩手・宮城県内の事業者計7名が参加した。
- ・品質管理キャラバン：2015年5月19日～20日
宮城県内工場で開催され、参加者は岩手、宮城県内の事業者計3名が参加した。
- ・フィールドワーク：2015年5月22日～24日
広島～萩～国東で開催され、参加者は岩手、宮城県内の事業者計6名が参加した。

5. プロモーション

■イベント

①第17回「ジャパンインターナショナルシーフードショー@ビックサイト」に出展

2016年8月19日～8月21日、東京ビックサイトで開催された「第17回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」に、東北の水産加工業者6社に当会のブースにて出展。石巻産の煮穴子や海藻、ホヤの加工品を目当てにブースには多くのバイヤーにお立ち寄り頂いた。

②「FOODEX JAPAN 2016」へ出店

2016年3月8日(火)～11日(金)の4日間、世界の数都市で開催されている食の展示会「FOODEX Japan 2016」が幕張メッセで開催され、東の食の会では、東北の水産事業者の皆様と国内・海外のバイヤーとの商談機会の獲得と成約を目的に6ブースを取得。フィッシャーマンズ・リーグのメンバーと共に出展した。春先の大きな牡蠣や新鮮なわかめに、バイヤーからは驚きの声も多く聞かれ、海外バイヤーからの引き合いも多く頂き、現在も商談を進めている。

③TOKYO HARVEST 2015 開催 (<http://www.tokyoharvest.com/>)

昨年に引き続き、2015年11月7日・8日に六本木ヒルズアリーナにおいて、「東京から、ラブレターを。」をコンセプトに、東京から日本全国の生産者に尊敬と感謝の気持ちを届ける収穫祭として開催された。Oisix、カフェ・カンパニー、東の食の会の共同で主催し、「食と農林水産業の祭典」の一つとして農林水産省と復興庁、東京都の後援を受けた。約35000人が来場、外国人のお客様も多く参加し賑わった。

当日は、ステージでのトークセッション、アーティストによるライブ、生産者の努力と功績を讃える「THE☆HARVESTAR」の表彰、全国から集った秋のマルシェやキッチンカーの出店、越後妻有からやってきた巨大藁アートの展示などを行った。

また、六本木ヒルズ内の店舗と連携して、秋の旬の農産品を使ったコラボメニュー企画を11店舗で行った。

さらに、今年は丸の内会場でも同時開催し、マルシェや子供向けイベント、巨大な牛の藁アートの展示などを行った。

■SNS

・東の食のプロフェッショナル

「東の食のプロフェッショナル」と題して東北の生産者のPR動画を作成し、YouTube上で公開、Facebook、Twitter上で宣伝・拡散した。これまで20本ほどの動画を作成している。生産者の生産現場を身近に感じ、生産者の哲学を知ってもらうことをコンセプトとし、生産者の皆様に好評を頂いた。

「東の食のプロフェッショナル」YouTube公式チャンネル

(https://www.youtube.com/channel/UCv77UVi5J1D6Gb5C_2eUFYQ)

■メディア掲載

<掲載媒体例>

- ・ NHK 「クローズアップ現代」 (フィッシャーマンジャパン) 2015/04/14
- ・ TBS 「林先生が驚く初耳学」 (サヴァ缶) 2015/08/16
- ・ TBS 「世界ふしぎ発見」 (たかたのゆめ) 2015/10/31
- ・ NHK 「サキどり」 (三陸フィッシャーマンズ・プロジェクト) 2016/03/13
- ・ 岩手日報 (東の食の実行会議 2015) 2015/07/11
- ・ フジ産経新聞 (サヴァ缶) 2015/06/28・朝日新聞 (アカモク) 2015/09/02
- ・ 読売オンライン (アカモク) 2015/10/29
- ・ Yahoo!ニュース (東の食の実行会議 2016) 2016/03
- ・ 福島民報新聞 (東の食の実行会議 2016) 2016/03/05
- ・ 福島民友新聞 (東の食の実行会議 2016) 2016/03/05
- ・ 岩手日報 (三陸フィッシャーマンズ・リーグ) 2016/03/19
- ・ GQ JAPAN (東の食の実行会議 2015) 2015/08
- ・ 雑誌 女性自身 (東の食の実行会議 2015) 2015/08
- ・ 雑誌 Discover Japan (アカモク) 2016/01
- ・ 雑誌 OZmagazine (サヴァ缶) 2016/03
- ・ WEB ぐるナビ(グルメサイト) (サヴァ缶) 2015/05
- ・ WEB クックパッドニュース(レシピサイト) (サヴァ缶) 2015/09
- ・ WEB IBC NEWS (サヴァ缶) 2016/02

【4】会員に関する状況

2016年3月末現在の会員企業は以下の通り。(敬称略)

特別会員 (5社)

オイシックス株式会社
カフェ・カンパニー株式会社
キューピー株式会社
キリンビール株式会社
株式会社ぐるなび

一般会員 (28社)

いちかわライスビジネス株式会社
株式会社伊藤園
伊藤忠食品株式会社
株式会社イヌイ
株式会社ウィルプランニング
株式会社魚耕
株式会社かね善
株式会社河内屋

木次乳業有限会社
株式会社クインビーガーデン
株式会社久世
Kマーケティングアンドコンサルティング株式会社
光海株式会社
コンタツ株式会社
株式会社ジャックポットプランニング
株式会社水宗園本舗
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
株式会社手造り屋
東京デリカフーズ株式会社
とうふプロジェクトジャパン株式会社
株式会社ナチュラルハウス
南海食品株式会社
株式会社ファミリーマート
株式会社マルツ尾清
有限会社味楽園
株式会社結農彩
横浜市場センター株式会社
株式会社ローソン

【5】一般社団法人東の食の会 運営体制

<理事>

楠本 修二郎 カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長 《代表理事》
高島 宏平 オイシックス株式会社 代表取締役社長 《代表理事》
立花 貴 公益社団法人 sweet treat311 代表理事/株式会社四縁代表
宮城 治男 NPO 法人 ETIC. 代表理事

<事務局>

高橋 大就 《事務局代表》
築瀬 徳和
小沼 利幸
芦間 忍
豊川 竜司
木村 拓哉
亀山 絵理香
秦 正顕

<監事>

橋岡 宏成 ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所

<各県代表>

多田 一彦 特定非営利活動法人遠野まごころネット 代表理事 《岩手県代表》
青木 聡志 株式会社ハミングバード・インターナショナル 専務取締役 《宮城県代表》
島田 昌幸 株式会社ファミリア 代表取締役 《宮城県代表》
千葉 大貴 有限会社マイティー千葉重 代表取締役 《宮城県代表》
本田 勝之助 有限会社津食のルネッサンス 代表取締役 《福島県代表》

<発起人>

楠本 修二郎 カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長
小暮 真久 TABLE FOR TWO International 事務局長
近藤 洋介 民進党衆議院議員
平 将明 自民党衆議院議員
高島 宏平 オイシックス株式会社 代表取締役社長
立花 貴 公益社団法人 sweet treat311 代表理事/株式会社四縁代表
松田 公太 日本を元気にする会参議院議員
宮城 治男 NPO 法人 ETIC. 代表理事

<アドバイザー>

出井 伸之 クオンタムリープ株式会社 代表取締役
元ソニー代表取締役兼 CEO、最高顧問
ジェームス・スミス エモリー大学教授、元 IAEA 顧問
竹中 平蔵 慶應義塾大学教授、元経済財政政策担当大臣
野田 一夫 日本総合研究所会長、宮城大学初代学長

以上